

ヘルシンキオリンピック出場 高4回卒 倉橋 範彦さん

# ご存じでしたか？ 西高卒・四人のオリンピック



倉橋 範彦さん  
東京杉並区のご自宅にて

浜松西高校出身のオリンピック代表選手は、4人いらっしゃいます。戦後の日本水泳界を長年に渡りリードされた古橋廣之進さん(中18回)、同・水泳の倉橋範彦さん(高4回)、陸上の石川準司さん(高16回)、柔道の溝口紀子さん(高42回)です。ヘルシンキ五輪、東京五輪、そしてバルセロナ五輪と、輝かしい歴史があります。



発行 静岡県立浜松西高等学校同窓会  
発行人 御室健一郎  
編集 町田 晃  
題集 同窓会報編集委員会  
印刷 053(4556)0662  
(有)ケーエス企画

発行部数 15,500部  
浜松二中卒業生 2,041名  
浜松西高卒業生 25,030名  
(内女子 5,658名)  
内29年度卒業生 241名 (117名)

いつから水泳を始めましたか？

倉橋範彦さん(以下、倉橋) 私は昭和7年に雄踏町山崎に生まれました。小学校に上がる前から、浜名湖で遊びながら泳いでいました。通っていた雄踏小学校の水泳部では、浜名湖での遠泳が伝統的に行われていてそこで地力がついたのだと思います。中学3年生の時、全国中学ランキングの背泳で1位になりました。インターハイでは、高校2年と3年で五十m、百m共に連覇し、高校3年生の時にオリンピック候補選手に抜擢されました。

ヘルシンキへは、古橋廣之進さんとともに出場されたんですね！

倉橋 はい、昭和27年のことです。敗戦国の日本は昭和23年のロンドンオリンピックへの参加が認められませんでした。日本水連は日本選手権をロンドン五輪の水泳競技決勝と同日に開催し、古橋廣之進さんは四百m自由形と千五百m自由形でロンドン五輪金メダリストの記録および当時の世界記録を上回ったのです。敗戦直後で日本人の多くが苦しんでいる時期に、「世界記録」を連発する古橋さんは国民的英雄になりました。翌年、日本の国際水泳連盟復帰が認められ、古橋さ

んや橋爪四郎さんら6選手は8月にロサンゼルスで行われた全米選手権に招待されて参加し、四百m自由形、八百m自由形、千五百m自由形で世界新記録を樹立し、アメリカの新聞で「フジャマのトビウオ」と呼ばれたのは有名な話ですよ。そこから三年後昭和27年のオリンピックがヘルシンキだったのです。最初は私も古橋さんと同じくロープで練習しておりました。ウォーミングアップとして背泳をしていたら当時のコーチに「背泳で行け」との指示を受け、背泳種目での出場となりました。

ヘルシンキオリンピックでは古橋さんが四百m自由形、私が百m背泳で参加しました。事前合宿ではいいタイムを出していてメダルを取れると思っていました。会場のプールはどんなものかを知っておきたかったのですが今と違って情報がありません。コーチ、スタッフが努力しましたが、情報がつかめず、日本のプールと本番のヘルシンキのプールではターンする面が違っていて、本番でターンに失敗をしてしまいました。予選を通過出来ませんでした。残念でしたが、オリンピック出場はいい思い出です。

負け惜しみではありませんが、その後アジア水泳選手権がフィリピンのマニラでありました。百m背泳で私は銀メダルを獲得しました。

——古橋廣之進さんとはどんな関係だったのですか？

**倉橋** 古橋さんは私の4年私の先輩で、実家がお近所というだけでなく、私の兄とは同級生、その上父親同士も仲が良く、家族ぐるみの親しいお付き合いでした。私にとっては実の兄のようでもあり恩人でもありました。古橋さんも私を本当に可愛がって面倒をみてくれました。小、中、高、大学（日本大学）と同じ進路を歩きました。4歳違うので西高時代は練習と一緒にしたことはありませんでしたが、古橋さんの地元ということもあつたでしょう、日本大学の水泳部が、合宿地として浜松西高に来てくれました。すでに社会人だった古橋さんは在学中の私に声をかけてくれて、その縁で私も日本大学への進学を決めました。



▲ヘルシンキ五輪出場の倉橋選手

日本大学では、クロールで出場した二百m×4人のリレーで日本記録を出した覚えがありません。

——現在の西高生にひとこと

**倉橋** 私の在学当時は水泳では全国大会で皆、上位を占めていました。社会人になってから古橋さんに誘われて、日本水泳連盟の事務局長になり全国の水泳部を見て回りましたが、そのころからちよつと母校の活躍がなくて寂しいです。ノーベル賞は天野さんがいますが、スポーツの分野でもオリンピックに（特に水泳で）出場することを期待しています。

——文武両道の校風を堅持しつつ、スポーツにも一層力をいれてガンバリ！と檄(ゲキ)をいただきました。



▶浜松二中・水泳部の練習風景  
現在のプールは昭和46年に完成したものです



▶ヘルシンキオリンピックに参加する古橋・倉橋両選手を激励のため見玉先生小杉生徒会長、太田水泳部長が上京

西高卒・オリンピック出場選手のエピソード

古橋廣之進 (中18回)

全米選手権に参加し、世界新記録を樹立し「フジヤマのトビウオ」と呼ばれた古橋廣之進先輩。昭和27年ヘルシンキオリンピックに出場したが、本番では四百m自由形8位に終わる。この時、実況を担当したNHKアナウンサーが涙声で「日本の皆様、どうぞ、決して古橋を責めないで下さい。偉大な古橋の存在あつてこそ、今日のオリンピックの盛儀があつたのであります。古橋の偉大な足跡を、どうぞ皆さま、もう一度振り返ってやって下さい。そして日本のスポーツ界と言わず、日本の皆さまは暖かい気持ちで、古橋を迎えてやって下さい」と述べたのであつた。

石川準司 (高16回)

西高校の立地を生かした練習方法をあみだした当時の陸上部の顧問は東西の坂や寺院の石段を登らせたり、遠州灘海岸の砂浜を走らせたりした。科学的トレーニングが普及していなかつた当時としては、先進的な取り組み。「自分の体重で負荷をかけた良い練習方法だった」と振り返る。その後、石川は東京五輪四百mリレーに出場を果たした。



(昭和46年から昭和56年西高在任)

溝口紀子 (高42回)

バルセロナオリンピックでは女子柔道52キロ級にて銀メダルを獲得した溝口紀子。小学四年生で柔道を始めた。稽古初日に鎖骨を折る洗礼を浴びたが、次第に男子の先輩を投げ飛ばすようになっていった。柔道にのめり込む娘の姿を見て、父は自宅の車庫に二十枚の畳を敷き特訓場にした。「柔道バカにはなるなよ」。母も「文武両道。柔道も頑張りながら、将来は教員を目指してほしい」。これを受け、高校は強豪校ではなく進学校の浜松西高を選んだ。



# 人間力



同窓会会長  
御室健一郎(高16回)

初秋の候、同窓の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃は、同窓会活動に格別なるご理解、ご協力を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

時は少し経過いたしました。この冬は平昌オリンピックでの日本選手団の活躍に大いに沸きました。男子フィギュアスケートでの羽生選手、宇野選手のワンツーフイニッシュ、女子スピードスケート陣のメダルラッシュ、女子カーリング逆転の銅メダルなど、印象深いシーンが数多い大会だったのでないでしょうか。

や言葉遣い、周囲の人々と良好な関係を築くコミュニケーション能力など、様々な視点で選手の教育が行われたようです。スピードやテクニクを競うアスリートの世界で人間力が問われるということは、私にとって新鮮なことでした。ただ、思い起こせば、選手達のインタビューでの真摯な受け答えや、ファンの皆さんへの誠実な態度などは、まさにそれを裏付けるものであったなあと思心したところです。

さて、そんなオリンピックの興奮も一段落した折、メジャーリーグの猛者達を快刀乱麻で三振に切つてとつたかと思えば、剛速球をいとも簡単にスタンドへ放り込んでしまう、漫画の主人公さながらに躍動する大谷翔平選手が連日マスコミをにぎわしています。ご存知の方も多いと思いますが、その彼が野球のスーパースターになるという夢を達成するため、高校一年生の時に作成した「目標達成シート」というものがあります。詳しい説明は省きますが、目標を達成するために必要な要素を8つピックアップし、それをさらに8つの項目へとブレイクダウンして実践するとどうなるか、なんと彼はその8要素の中に「人間性」と「運」という二つを盛り込んでいました。

この4月も、夢を持った多くの若者が、西山台での学生生活をスタートしました。我々は、同窓会活動を通じて、勉学に最適な環境を整えることに努め、彼らの「人間力」向上にも一役買えたら幸いに存じます。そして、いずれ西山台から社会へ巣立って、それぞれの夢を実現していくことを期待しまして、挨拶といたします。

## 秋の叙勲(金融業功労)



### 新産業を 創り育てる

浜松信用金庫理事長、浜松市北区

御室健一郎(高16回)

地域に根差した金融機関の一員として、地元の発展を常に念頭に置いてきました。印象的なのは取引先の仕事が増減したリーマン・ショック。お客様を支えなければと強く感じました。少子高齢化が進み、浜松地域には海外に進出する企業も多いため、新しい産業を創出し、育てる仕組みづくりが重要です。受ける信用金庫づくりを進めていきます。

## 「知、仁、勇」の 校訓のもとに



校長 松下 和弘

同窓会の皆様には、日頃から本校の教育活動に御理解と御協力を賜り、心から感謝申し上げます。

この四月に三科守校長の後任として、この西山台に立つ浜松西高等学校・同中等部に着任いたしました。伝統ある本校での勤務に緊張と戸惑いも多くある中、同窓会の皆様から、暖かな御支援、御助言をいただき、大変心強く、今後ともよろしくお願いたします。

着任いたしました。校内外を歩き回っていたところ、本校へとつながる三つの坂にそれぞれ、「知」「仁」「勇」の文字が刻まれた石柱が立っていました。

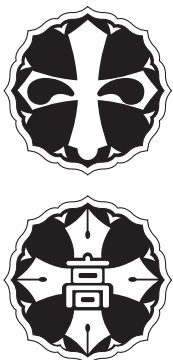
記念館のそばに立つ石碑には、校章とともに、「たくましい力、高い知性、豊かな心」との校訓が刻まれています。

そして、その横にもう一基石碑があり、今とは少しデザインが異なる校章が刻まれており、併せてその由来を示すかのように、「玉は以て温仁の徳を表はすべし、鏡は以て致格の知を表はすべし、劔は以て決断の勇を表はすべし、其の象る所、その形づくる所、皆天神の至誠なり(中朝事実)、知、仁、勇の三者は天下の達徳なり(中庸)」との漢文がありました。

同窓会の方に伺ったところ、この玉、鏡、劔がデザインされた校章は、浜松第二中学校の頃のものとのことでした。玉は仁を、鏡は知を、劔は勇を象徴し、その出典から、本校が位置する場所と江戸時代以来の国学との関わりも強く感じられます。

すべし、鏡は以て致格の知を表はすべし、劔は以て決断の勇を表はすべし、其の象る所、その形づくる所、皆天神の至誠なり(中朝事実)、知、仁、勇の三者は天下の達徳なり(中庸)との漢文がありました。同窓会の方に伺ったところ、この玉、鏡、劔がデザインされた校章は、浜松第二中学校の頃のものとのことでした。玉は仁を、鏡は知を、劔は勇を象徴し、その出典から、本校が位置する場所と江戸時代以来の国学との関わりも強く感じられます。それゆえに、新制高校へと移行する際に、新たな時代への思いを込めてか、確かなところは分かりませんが、四本のペンがデザインされた今の校章になったのかと推察しています。現在の西高生は、まさにペンが象徴する如く勉学にと気持ちは向けられていますが、建学の精神として、温仁の徳、致格の知、決断の勇が確かにそこに重なっている、そのような生徒を育てていきたいと、微力ながら努めてまいりたいと考えております。

今後とも、本校の様々な教育活動に対する御支援、御協力をよろしく願いたします。



2018年新春の集い  
迫力のオープニング映像と  
おもてなしで新年をスタート

代表幹事

磯部元成 (高50回)



2018年新春の集いのテーマは「結(むすぶ)」とさせていただきます。浜松西高同窓生が世代を超えて結びつきを感じられる、そんな「新春の集い」にしたいという想いを込めて、高50回卒同級生と共に準備を進めて参りました。準備を進めていく中で、これまで結びつきのなかった同級生、諸先輩方と関わりを持つことができ、地元浜松や日本全国、世界中に飛び出して活躍する同窓生の姿を肌で感じ、改めて浜松西高卒業生であることに感謝するようになりました。

したが、それぞれに温かいご対応をいただき、グッズ購入にも積極的にご協力いただきました。改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、本会のオープニング映像では、浜松西高校の全面協力の下、これまで前例のなかったドローンでの空撮映像を取り入れました。朝日が昇る頃の校舎やグラウンドの空撮映像と現役生の授業や部活動の様子などを織り交ぜ、「西高の今」をこれまでと違った視点からお伝え致しました。空から見る西山台に建つ母校は、厳かで美しく、改めて浜松西高校の素晴らしい環境を感じていただけたのではないかと思います。

QRコード  
オープニング映像  
[https://m.facebook.com/story.php?story\\_fbid=1467344780033459&id=100002738522562](https://m.facebook.com/story.php?story_fbid=1467344780033459&id=100002738522562)

式典では山口光さん、御室健一郎さんの叙勲者表彰や、還暦を迎えられた高28回卒の方々による鏡開きを執り行いました。その後、伊藤孝後援会長のご発声により盛大に乾杯が行われました。歓迎談に華を添えたのは、「琴英会」の方々による琴の演奏と歌謡詩吟でした。厳かで落ち着いた音色は、新春に相応しく、会場を温かく包み込んでくれました。親・子・孫の三世代にわたる演奏と歌は、2018年が、世代や時代を超えて手を携

2018年 新春の集い 収支報告書

(単位：円)

科目	金額	摘要
広告売上	9,561,568	広告446件
チケット売上	5,345,460	チケット枚数686枚
記念品売上	337,000	箸置き他
雑収入	180,000	恩師・来賓よりご祝儀
預金利息	31	預金利息
合計	15,424,059	



司会の塚田さん



高50回応援団OB

え、協力し合える一年になってほしいという想いが込められていました。新春の集いの司会は、高60回卒で静岡朝日テレビ・アナウンサーである堺瞳さんに務めていただきました。毎年恒例の新春大抽選会では、落ち着いた司会進行と巧みな話術で、大いに大抽選会を盛り上げていただきました。司会者から当選者番号が読み上げられるたびに、会場から歓声とため息が漏れていたことが、大変印象的でした。

科目	金額	摘要
会場費	7,982,776	グランドホテル会場費等
景品費	648,281	当日抽選会の景品
印刷費	2,035,445	記念誌、チケット等
通信費	252,873	携帯電話、葉書等
会議費	1,131,685	幹事会、部会経費等
事務費	35,185	文具等
交際費	968,828	西高フォーラム、総会参加等
渉外費	1,356,996	クライアントとの打ち合わせ等
雑費	6,480	振込手数料等
その他	0	
本会計繰入	1,005,510	
合計	15,424,059	

そして新春の集い締めくくりは、応援歌斉唱です。幹事学年の応援団員6名が西山魂の伝統と誇りを胸に威勢よく応援コールを行い、ご来場よく応援コールと一体となった応援歌を斉唱致しました。浜松西高同窓会の歴史や伝統、そして世代を超えた団結に胸を熱くする、そんなひと時でした。来年2019年新春の集いテーマは、「風-Lets blow Hananishi's wind-」です。次年度幹事高51回卒の代表である伊藤武郎さんを中心に、西高の素晴らしき伝統に、新たな風を吹き込み、同窓会活動がさらに盛り上がるような新春の集いを企画してきたいと思います。最後にになりましたが、仕事や育児など多忙であるにも関わらず、協力してくれた高50回の皆さん、



高28回還暦鏡割り

本当に感謝です、ありがとうございます！そして浜松西高同窓生の皆様のご健康とご多幸、益々のご活躍を祈念いたしまして、簡単ではありますが代表幹事の挨拶とさせていただきます。

上記の通りご報告申し上げます。

静岡県立浜松西高等学校

第50回卒 2018新春の集い幹事会

代表幹事 磯部 元成 (印)  
会計 森島 涼介 (印)

上記の通り正確に処理され適正と認めます。

平成30年3月20日 会計監査 前田 米藏 (印)  
会計監査 大塚 哲雄 (印)

平成三十年度 総会報告

6月9日グランドホテル浜松にて平成30年度同窓会総会が開かれました。総会には62名、その後の懇親会には55名の会員が出席しました。御室健一郎同窓会長の挨拶から始まり左記の議事を進行し、了承を得ました。

- 1 平成29年度事業報告
2 平成29年度一般会計決算報告、監査報告
3 「2018年新春の集い」事業報告、決算報告、監査報告
4 役員改選
5 平成30年度同窓会事業計画、会報編集計画
6 平成30年一般予算
7 「2019年新春の集い」事業計画



《新役員のみなさん》



平成29年度 静岡県立浜松西高等学校同窓会一般会計決算書

Table with financial data for Heisei 29: 前期繰越金 9,581,739円, 収入総額 4,689,683円, 支出総額 6,840,940円, etc.

Income and Expense tables for Heisei 29. Income total: 15,242,539. Expense total: 15,539,042.

平成30年度 静岡県立浜松西高等学校同窓会一般会計予算書(案)

Table with financial data for Heisei 30 budget: 前期繰越金 7,868,560円, 収入総額 5,294,821円, 支出総額 5,232,000円, etc.

Income and Expense tables for Heisei 30 budget. Income total: 14,403,381. Expense total: 15,539,042.

Detailed expense table for Heisei 29 with columns for item, budget, actual, and notes.

Detailed expense table for Heisei 30 budget with columns for item, budget, and notes.

平成30年 3月31日 静岡県立浜松西高等学校同窓会 会長 御室 健一郎
上記の決算について証拠書類、出納簿を精査したところ、適正かつ正確であることを認めます。
平成30年 5月15日 会計監査 前田 米 藏 ㊟ 会計監査 大塚 哲 雄 ㊟

※科目間の流用を認める

# 還暦に寄せて

## 〜東京オリンピックがやって来る〜

長野 正弘(高29回)



1964年秋。東京オリンピックの聖火隊が、菅原森田の陸橋を超え成子にやってきた。私は、明治生まれの祖父の肩の上で日の丸の小旗を振っている。世はまさに、戦後の終わりを告げようとしていた。同じ頃、東海道新幹線も開通し、黄色の新幹線を見た見ないで大騒ぎしていた記憶がある。かくして、オリンピックは夢の超特急とともに戦後を払拭していく。夏の氷を入れて使っていた木の冷蔵庫が調味料の棚となり、交換手と呼ばなくても電話は繋がるようになった。薪をくべて沸かした風呂も湯沸かし器の登場で蛇口を捻ればお湯が出た。その後の高度経済成長から現在に至るまで、世の中は大きく移り行く。私を肩車してくれた祖父は、その5年後に67歳で他界

した。昭和40年の平均寿命(男性)は、67.74歳。平成28年平均寿命(男性)は、80.98歳。科学の進歩の度合いは、三字曲線を描き垂直に近い伸び率。とてつもない進歩が、新しい価値観と世界観を生み、生活の質をも変えてゆく。

還暦?平均寿命まで、まだ、20年。単なる通過点かもしれないが還暦という節目に、この先どう生きようか、ここはひとつ、思いを廻らせてみるのもイイ。

あれから54年。再びオリンピックがやって来る。陸橋は、いつしか無くなったが、成子の交差点で孫を肩車して、オリンピックの聖火を迎えたいものである。

2018年 初夏

### 静岡県庁があなたの就活をバックアップ!

#### しずおかU・I ターン就職サポートセンター

**所在地** 東京都品川区上大崎 2-25-2 新目黒東急ビル6F  
**TEL** 0800-800-6617  
**メール** uicenter@sigma-jp.co.jp  
**開館** 9:00~17:00 (平日及び隔週の土曜日)  
**支援内容** ・就職相談・カウンセリング(要予約)  
 ・県内企業による合同企業説明会・面接会  
 ・県内企業の求人情報の公開



J R 目黒駅西口徒歩2分

静岡U・Iターン就職サポートセンター オリジナルキャラクター「めいちゃん」

# 書籍紹介

## 同窓生の著作です

### 「君と見つめる、はじまりの景色」

(ペンネーム) 騎月孝弘 著  
 スターツ出版文庫  
 鈴木孝弘(高47回)

浜松西高卒業生が描く、浜松西高をモデルにした青春小説です。作中では浜松二高となつていますが、西高生にとつては馴染みの風景がそこかしこに出てきます。現役弓道部、OB、OGでなくとも希望に燃えていたあの頃にタイムスリップします。恋との友情、挫折と成長、大切な人との絆を描いた一冊。青春とはごくありふれた日常の中にある、それは何歳になつても、誰にでも出会うことができるものだ。と、作者は語っています。共感する卒業生は必読です。

現在学習塾講師を勤める鈴木孝弘氏が西高図書館に寄贈。私感ですが、映画になつて欲しいものです。



### 「道具を使うカラスの物語」

パメラ・S・ターナー 著  
 監訳 杉田昭栄  
 翻訳 須部宗生  
 須部宗生(高18回) 緑書房

単に道具を使うのではなく、独自の道具を作り上げ、改良する知能を持つカレドニアガラス。小学校高学年から大人まで誰もが楽しめる平易な表現と美しい写真で、そのカレドニアガラスの驚くべき能力を科学的視点から楽しく迫った本。翻訳は須部宗生さん。専門は言語学、辞書学、日英表現比較、小学校英語教育、音象徴。また、40余年にわたり静岡県猟友会浜北分会に所属し、カラスの野外観察経験も豊富な西高卒業生です。



フジヤマのトビウオ  
 ミスターオリンピック  
 「泳心一路」古橋廣之進 伝  
 松尾良一著  
 雄踏喜楽会  
 松尾良一(高22回)

浜松から日本水泳界の礎を築いたひとり、古橋廣之進。フジヤマのトビウオ、オリンピックであることぐらいしか知らない人も多いのではないかと。本著で、少年時代から大学進学、フジヤマのトビウオと呼ばれるまでの話、そしてアジアで初のオリンピック、東京五輪を開催するまでの舞台裏についての数々のエピソードなど読み応えのある一冊となっている。また、本書以外に「浜松市民していますか」「浜松おもしろのおと」「ブラジル移民の父平野運平」などがある。



# 第42回浜松西高同窓ゴルフ大会

## 200名を超える同窓生がゴルフ大会で集結

第42回浜松西高同窓ゴルフ大会が、平成30年5月16日(水)青空の下浜名湖カントリークラブにて開催されました。

2月初旬から「ゴルフ大会の申し込みはどうすればよいですか?」と事務局へメールをくださった方もあり、皆様が楽しみにされていることを幹事を務めて知ることができました。ゴルフ



高11回の皆様

フをしていると認知症になりにくい、歩くことは健康に良く病気になるににくいとのデータがあるそうです。70歳を超えて同窓ゴルフに初参加の方もいらっしゃいました。この42回続く大会は健康維持に役立っているのかもしれない。喜寿を迎えた高11回皆様の澁刺とした勇姿をどうぞご覧ください。(写真上)

競技の結果は次の通りです。

○シニアの部(高18回以上)53名参加

優勝 高見禮吉(高12回)

○一般の部156名参加

優勝 夏目亮(高43回)

2位 中津川友介(高49回)

3位 前嶋文明(高22回)

グロス99ネット70.2

グロス89ネット71.0

○女性の部5名参加

優勝 花田雪乃(高34回)

ご協賛を賜りました皆様、ご参加くださいました皆様、本当にありがとうございました。

大会のさらなる発展を祈念致しております。

(幹事 高39回一同)

### 浜松西高同窓ゴルフ大会に参加して

高校卒業後は関東地方を拠点としていたこともあり、参加の機会に恵まれずにおりましたが、高11回卒の同級生から誘いをうけ、2012年に初参加、以来6回目の参加となりました。

幅広い年代の同窓生が技を競い合いながら一日楽しく懇親を深める大ゴルフ大会。

横浜に居住する私は、毎年この時期本大会を待ち望んでおり、参加して同窓生と旧交を温めながら、勿論自分のゴルフでは技を競いながら一生懸命プレーできるところが楽しみです。

これからも参加して微力ながら本大会を盛り上げていきたいと思っております。

2018年5月17日

白柳敏行(高11回)

### 野球

#### 対浜松北高OB定期戦

#### 打撃爆発で昨年のリベンジを果たす

平成30年4月30日、浜松市宮球場にて浜松西高校対浜松北高校野球部定期戦に先立って、同OB戦が行われた。初回表から安達(高24回)・田力(高27回)の連打が出るも得点ならず。その裏先発藤田陸(高13回)は5球で3アウトと小刻みよくスタート。2回裏に1点を失うものの、3回表に四球を選んだ加藤(高40回)を島(高40回)がライト前ヒットで進め、飯田吉(高45回)のセンター前ヒットにより2点が入り逆転に成功。

4回裏、北高はエラーとヒットにより1点を加点、同点のまま試合を40才以下に託す。5回裏投手富田(高66回)は3つのアウトを全て三振でとり好投。7回表、1アウトから野田(高64回)がセンター前ヒット、盗塁で2塁へ進むと生熊(高65回)が強烈なライト方向への2塁打を打ち1点を追加。8回表先頭バッターの伊藤(高47回)の内野安打、太田(高48回)の四球でランナーをためたところへ中野(高50回)のセンター前ヒット、鈴木通(高58回)の3塁線へのヒット、井口(高58回)のレフト前ヒットが続き2点を返す。なおも満塁で続く飯

田将(高59回)がライト方向へのホームランを打ち走者一掃、この一回一挙6点を追加する。続く佐藤(高64回)もレフトへの2塁打を放つものの残塁。8回裏、北高も3塁打などで1点を返すものの反撃はそこまで。9対3にて西高の勝利となる。

来年も同時期ごろに第42回定期戦を予定しております。午前9時よりOB戦、午後1時より現役戦となります。OBの皆様参加はもちろんのこと、お子様、お孫様を連れになり、是非球場に応援にきていただけたらと思います。

藤田浩二(高36回)

浜松西 00200001609  
浜松北 01010000103

本塁打 飯田将  
2塁打 生熊・佐藤  
藤田陸・永田・細川正・飯田吉・  
富田・生熊・細川拓・鈴木通  
野田・加藤・山本・佐藤  
戦績20勝15敗3分3中止



同窓会専用電話・ファックス

☎/FAX 053-456-0662

Eメールアドレス

hama24@hamanishi.org

※毎週火曜日午前10時~12時までは事務員の長尾さん、徳永さんが応対。それ以外はファックス・メール又は、留守番電話にメッセージを録音して下さい。

# 西高部活今昔

## 柔道

### 創部88年の伝統と「文武両道」の継承

柔道部の創部は昭和5年にさかのぼり、東京五輪の2020年には90周年の節目を迎えます。柔道場「自強館」には、旧制中学からのOB・OG約4百名の名札が並んでいます。その中には、五輪銀メダリストの溝口紀子(高42回)を初め、高校総体・国体選手の名前もあります。

OB会は昭和46年に設立、現在は白井康二(高29回)会長のもと現役選手の支援活動をしています。

毎年恒例の新春1月2日の稽古始めには、卒業した大学生や20代のOBを中心に集まり、現役部員と合同練習や試合を行うほか、OB同士の交流の場もなっています。OB会の年会費は現役選手の支援にあてられますが、十分とはいえません。今年も寄付を募り、道場の畳4畳を寄贈いたしました。

現役部員は、渥美文宏監督のもと実力をつけ、今年は高校総体西部予選において優勝2名、県大



勉強だけでなく、部活に勤しんだ三年間。西高でのクラブ活動に深い思い出がある卒業生も多いことと、思います。伝統ある体育会系の近況報告だけでなく、文化系クラブ活動も現在活躍中。昔はなかった文化系クラブの活動も報告します。

会で3名が3位と健闘しました。文武両道の伝統を継承し、県東・中部の強豪校にも拮抗する西高柔道部は、他校からも一目置かれる存在です。平成20年の鈴木壮太(高61回)以来の全国大会出場の実現に向け期待も高まります。

これからも現役選手の活躍支援のために、OBの皆様にはさらなるご理解ご協力をお願いいたします。(会計担当・新村俊明・高36回)

## バスケットボール

### 伝統の新春バスケ交流で絆深まる！

バスケットボール部は今年1月2日昼には体育館にて毎年恒例の行事である現役とOBの親善試合及び、夜にはホテルコンコルド浜松にてOB総会が開催されました。



県西部リーグでのOBチーム(フリースロークラブ、ポケッツ)参加に加え、一昨年よりOBゴルフ大会も毎年行われるようになり、年々拡がる世代を越えたOB・OGの輪！今年特筆すべき点は初めてOG5名の参加があったことです。会場は溢れんばかりの人で昔話に花が咲き、最

## サッカー

### 伝統の西北戦

毎年8月の第1日曜日は、浜松西高校と浜松北高校の現役サッカー部員とOBの方々が集まり伝統の定期戦「西北戦」が行われています。

第40回を迎えた定期戦は、浜松北高校が幹事当番となり、遠州灘海浜公園球技場で行われました。現役部員のみならず、そして若手OBから60代・70代までの各世代OBが集まり、みんなでサッカーを楽しむことができました。現役のころから切磋琢磨してきた浜松北高校と今でも続く意地とプライドをかけた真剣な戦いは毎年の楽しみみの1つであります。これからもこの伝統ある「西北戦」が今後も続くこと、そして浜松西高校サッカー部の発展を心より願っております。小杉哲康(高47回)



## リフレッシュ

### リフレッシュ部は歴とした運動部

リフレッシュ部を知らない卒業生はこのネーミングからどんな部活を想像されるだろうか？



当時一学年総勢40名程度と大変な大所帯の部活であった。他のどんな部活よりも部員は多く、部員でさえも誰が部員であるかわからない状態であった。そしてその名を知らない生徒はいない部活であった。ただ、その活動は謎につつまれており、「帰宅部」のレッテルを貼られた活動実態があったことをご存じない方も多いのではないだろうか。

顧問は無養綺三先生。地歴公民科の教員にして、チョモランマを制覇した鬼の登山家らしい。そして敏腕スキーヤーとしての顔を持つ漢。活動はざっくり2班「登山班」と「スキー班」であった。「登山班」はほんの数名。年に幾度も活動があった。そしてメインは夏山登山、一週間分の食料を背負って北アルプスや南ア

## 弓道

### 百八射会

朝の連続テレビ小説で主人公の幼馴染が恋をする相手は、高校の弓道部の凛とした女の子でした。その姿にひかれ自身も大学で弓道を始めるというお話がありました。先輩方のカッコよさに惹かれ入部したことを懐かしく思い出しました。さて、私も「浜西弦友会」は現役生の射技向上および交流をはかるために、毎年「浜西弦友会杯」を実施しています。弓道部の年末恒例行事「百八射会」(文字通り、百八の煩惱を払うべく108回、矢を射ると)の一部を競技とし、優勝者には記念品を贈っています。静岡新聞、中日新聞にも毎年取材をしていただくほど、年末の恒例行事として定着しています。

現在は会員61名ですが、まだ入会されていないOB・OGの方も是非、ご参加ください。



新村俊明(高36回)



演劇

円熟味増す！西山魂の表現者、此処にあり！

2017年11月4日に、高19回卒から高26回卒までの演劇部OB・OGによる同窓会が開催されました。

大変嬉しいことに、今回は、昨年発行された同窓会報の演劇部の記事を、高22回卒の犬塚広喜さん(横浜市在住)がご覧になり、開催された同窓会の模様を取材させていただきました。

「演劇の魅力は、観客のみならず、演者の喜びは、われわれ演者と会場にいる観客のみならずとで、一体になってワクワクする空間を創り上げられたとき。」参加者のみなさんは、今も現役当時と変わらぬ情熱で語ってくれました。

どれだけ月日が流れたとしても、変わらぬ笑顔と情熱がそこにあり続けるであろうと強く感じた宴席でした。それは、いつまでも尊敬し合える仲間への感謝の心が、この場を包んでいるからだ、私は確信しております。

円熟味を増してさらに、絆が深まっていく先輩方です！高20回卒の斉木しげるさんや、高23回卒の山下秀雄(瀧川鯉昇)さんなど、著名な



美術

30年前の活動は？ ～美術部昔話～

方々を含め多くの演劇部OB・OGが、今後も世代を超えて繋がり、西山魂の表現者として活躍されることを切に祈念申し上げます！

小名木勇人(高49回)

私が現役だった30年前の美術部は、大石倍二先生が顧問でした。当時は文化祭での展示や西武高校美術展出展のために油絵を描いたり、部長は彫塑製作していたり。当時は絵を描いていても描いていなくても、なんとなく部室に集まり、倍二先生が温かく見守る中、お菓子を食べたり焼き芋を食べたり銀杏を食べたり漫画を読んだりギターを弾いたり喋ったり。いっしょに何の活動もしていたので、いっしょか？北高美術部とボーリングもしたという声も。

この代は、同窓会学年幹事の前後年。声掛けをして2007年正月に高39回&40回10名ほどが集まって飲み会を開催。2016年にも小さくミニ飲み会を開催。夏にビアガーデンに行ったりカラオケに行ったり、小さいながらも年に1回程度は集まっています。新旧美術部で集まって、当時は懐かしみながら飲み会しませんか？

山本優美(高40回)

百人一首

全国大会 初出場決定!!

全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会静岡県予選 準優勝 第26回全国高等学校小倉百人一首かるた読手コンクール 優秀



先日行われたこの大会の直前に練習風景を見学させていたのだが、取材班「ちはやふる」そのまの光景。のんびりとした雰囲気は全くなく、運動部以上の白熱した内容に驚きました。団体戦主将の鶴田楓羽歌さんは、楽しそうだったから入り、楽しいから続けています。とのこと。

札を取りに行くときは「決まり字」(初めの字)の音を重視。特に「子音」で手が動くそう。顧問の藤田信行先生(高50回)は「勝ちにこだわる」先生で、生徒と一緒に練習に参加。この日はかなり高いレベルでの練習だったそうです。体育会系以上に声が出ていて、活気に満ちていました。この調子で全国大会も上位を狙ってほしいものです。

山本優美(高40回)

国際文化

英語で討論！2016年に英語デイベート全国大会出場！ 目指せ、さらなる上位入賞!!



「英語を喋るだけではダメ！与えられた論題にそって是非か熱く議論を戦わす大会で上位入賞が目標。顧問の野田先生指導の下で活動しています。」部長の大森正樹君が笑顔で話してくれました。英語デイベート大会では4人でひとつのチームとなり、立論から始まり、相手の立論に反論するアタック、相手のアタックに再反論し、自分たちの立論を立て直すディフェンスを、試合の総括をし、アタックスを考慮しても自分たちの立論が相手より優っていることをアピール。そして第三者によるジャッジ。論題は「安楽死」「移民」など、日本語でも話すのが難しい問題を英語で論議します。論理的思考力とクリティカルシンキングなど必須とのこと。

相手チームとのデイベートから生まれるスリルと驚き。チームメイト同士の絆、友情を感じる大会に向けて、総員13名が週二回、熱く部活に励んでいます。

土屋公良(高26回)

囲碁将棋

2020年には必ず全国大会出場を果たします！ 宣言が頼もしい「囲碁将棋部」女子部員も頑張っています。

案内された教室を覗くと、部室の棚に永世棋聖の称号を持つ米長邦雄(将棋)棋士の色紙と並び、数々の大会で活躍した盾が並んでいました。取材にきましたと伝えると、元氣な挨拶が返ってきました。部長の鈴木太智君、10年前はすごく強かったとのこと。その先輩たちに負けないよう本で各自勉強したり、部内で対戦をして腕を磨いているとのこと。時には他校との他流試合を申し込んだりもするそうです。目下のライバルは、やはり北高。教室の机の上では和気藹々と仲間の対局を見守る部員たち。囲碁顧問の鈴木正巳先生、将棋顧問の哲也先生の下、部員は総勢23名。女子部員もいます。取材時、真剣な眼差しで碁を打っていました。話を聞くと満面の笑みを返してくれました。

土屋公良(高26回)



がんばる幹事年紹介  
活躍する同窓生

2019年  
新春の集いに向けて



伊藤 武郎 (高51回)

ー現在のお仕事は？  
高校で保健体育の教員をしています。教員になることは自分の目標だったので、今、その職に就くことができ、本当に良かったと思います。また、続けてきた陸上競技の顧問もさせてもらい本当に感謝しています。陸上関係では県陸上競技協会の強化委員会的主務を任せられ、静岡県チームとして国民体育大会や都道府県対抗駅伝大会など携わることができ日々良い刺激をもらっています。

ー西高時代の思い出は？  
周りのみんなが本当に勉強ができる日々感じていました。自分の努力が足りなかったとは思いますが、勉強に関してはとても苦労し、補習を受けて、部活に遅れた記憶があります。

また、陸上競技部での活動が、大きく自分を成長させてくれたと思います。ここでの経験があつて、今の自分があると感じます。教育実習で西高に戻った時は中学生がいて、少し変な感じがしましたが、今は制服もブレザーに変わってしまい、学ランの銀ボタンが懐かしく思います。

ー今後の目標は？

高51回の代表幹事として2019年新春の集いの成功です。諸先輩方、同級生、後輩たちの協力があつて成り立つと思っています。この機会を感謝し、同級生たちと楽しく幹事を務めていきたいと思っています。皆様、よろしくお願いいたします。

また、保健体育の教員としては、生涯にわたってスポーツを楽しみ生徒を育てていきたいと思っています。好き嫌いはありますが、高校を卒業するとスポーツをする機会は激減します。自分でやるほうでもいいし、観戦するほうでもいいので、スポーツに親しむ心を授業の中で根付かせることができたらと思います。陸上競技部としては、西高のように全国で活躍できる選手を一人でも多くサポートできるように、自分自身も日々成長していかなければと思います。生徒への対応にはこれといった答えはないと思います。一人ひとりと向き合い、生徒がそれぞれの高校生活を一生の思い出となるようにサポートできる教員になれればと思います。

思い出詰まった地元で、  
地域に根付いた仕事と子育て



秋山 里絵 (高51回)

ー現在のお仕事は？

浜松信用金庫の職員として主に個人のお客様への営業の仕事をしています。営業というところ、ノルマ達成のために日々セールスをすると思われがちですが、最近の信用金庫の営業は、お客様の人生に寄り添って、相談や商品のご提案といったコンサルティング業務の役割が多くなってきましたように感じます。少子高齢化を迎えている今の時代、将来の年金受給額への不安、相続対策、介護を必要としている高齢の方の財産管理や、その他にも資産運用や信用金庫のネットワークを生かしたマッチング業務など、幅広い内容で地域のお客様のお役に立てられるよう日々取り組んでいます。

ー西高時代の思い出は？

高校生活を振り返ると、3年生の頃の事を良く思い出します。文化祭では、意見がぶつかり合うほどクラスメイトと案を

出し合い、慣れない工具を使って滑り台を作り、毎日遅くまで残って準備をしました。その甲斐もあり、当日は大盛況で私たちのクラスは賞を頂くことができました。

運動会ときには、練習や準備を頑張る私たちに、担任の家庭科の先生が手作りお菓子でねぎらってくださいたり。放課後居心地の良い生物研究室で先生たちとおしゃべりしながら勉強させてくださいたり。受験の際には先生がクラス写真でお待ちには先生がくださったり。友人にも先生にも恵まれた素晴らしい環境で充実した日々を過ごしていたように思います。学校が楽しすぎて、夏休みも毎日学校に通っていました(笑)今でも高校時代の友人や先生と交流があり、今の自分の支えになっています。

ー今後の目標は？

フルタイムの仕事を持ちながら、小3、年中、2歳児の3人の子供の親として育児が満喫中です。保育園のお迎えが遅くなったり、お盆や年末年始のほとんど誰も来ない保育園に登園させたりで不安な思いをさせて胸が痛かったこともたくさんありますが、それでも楽しく健康な毎日を送り、子供たちに「うちの子で良かった」と思ってもらえたら最高だと思っています。いつか自分の生活が落ち着いたら、今の私のように働くお母さんたちの力になるのも一つの目標です。

木育活動を通じて、  
林業の持続化へ



永田 琢也 (高51回)

ー現在のお仕事は？

北区引佐町で創業80年になる製材工場の4代目(永田木材株式会社 取締役)として製材・加工業を営んでいます。小売業として、一般のお客様、大工、工務店や設計事務所に至るまで様々なお手伝いをさせて頂いております。

主たる業務ですが、浜松市が誇る天竜杉・松の原木を製材加工し、地元を中心に関東、関西へ住宅部材や家具材の出荷をしております。また、机や椅子、木工製品の販売もしております。弊社の製品のつくり方は昔ながらの手法で、木材を天日で乾かす「天然乾燥」方式です。出荷まで半年から数年と手間暇がかかりますが、天竜材本来の良さ「色・艶・香り」を残したまま商品を提供する事ができます。浜松市の森林の多くは国際基準である「FSC認証」を取得しています。現在、建設が進んでいる新国立競技場、有明体操競技場(仮

称)にもこの浜松市の「F S C 認証材」である木材が納品されます。認証材の取扱いは資格が必要で、資格を持つ弊社も納材に携わりました。つい最近では、この資格のおかげで「スターバックスコヒー浜松城公園店」の工事の納材にも関わる事ができました。

一西高時代の思い出は？

かけがえのない充実した貴重な3年間でした。たくさんのお会い、経験、様々な勉強をさせて頂いた事で、見聞が広がりました。片道約2時間かけて通学した事もよく思い出されます。文武両道を掲げ勉強、スポーツへと熱心に取組む仲間が多く、たくさん刺激を受けました。

学園祭、球技大会、コーラスコンクールなどの学校行事においても、最初は上手くいかない事でも、クラスが一致団結し、最後までやり遂げる仲間の姿を見て西高生の底力を感じました。

3年生の学園祭の打上げ会場が、遠方である私の自宅(引佐)になり、その話が出た時は冗談だと思いましたが、実際に何十人とバスを乗り継ぎ来てくれ、たくさん語り合った事も今となっては良い思い出で、高校時代の友人は私の今の財産です。

社会人となった今も公私にわたり西高の繋がりに助けられる事が多く、改めて西高の伝統と絆の強さを感じております。

一今後の目標は？  
現在、浜松市から外部講師を

依頼され、年間を通じて小・中学校で授業を行っております。天竜材を扱う通常業務に加え「木育活動」を通じて、農業・商業・工業など「浜松の魅力」を全国へ広めると共に、浜松の地場産業である林業が、将来にわたり持続可能なものとなるように微力ながら社会へ貢献していきます。



アメリカ留学をきっかけにファッションデザイナーへ



Ayumi Williams (高51回)

浜松西高を卒業して早20年。今はロサンゼルスでファッションデザイナーをしています。高校時代は自分を見つめては自分迷ってしまうような日々でした。陸上部のマネージャーも途中で辞めてしまい、京都の大学に進学するも途中で辞めてし

まい、何か自分にはやりたいことや生きる意味があるのだろうか。と自問自答する毎日でした。そんな中、母がアメリカ留学の話を持ってきてくれました。当時言葉もままならない異国での生活が、私のような弱虫にできたのか、今考えてみても不思議で仕方ありません。私のアメリカ生活は、自分のデニムを枕にするような夜から始まりました。単身渡米してから20年が経った今は、アメリカ人男性との間に娘を授かり、母親として、妻として、夢を追いながら頑張っています。

……と言えは聞こえは良いですが、実際は夜もフリーランスのデザインをしながら働きづめです……。出産後3ヶ月で仕事を再開し、育児を理由にいい加減な仕事をしていると会社には思われたくない一心で必死に頑張りすぎて、娘に大変な思いをさせてしまったこともありました。締め切り前に熱にうなされる8ヶ月の娘をオフィスに連れていき、デザインを仕上げる中、たった一人の大切な娘を幸せにできないのに、どうして素晴らしいデザイナーなどできようという気になったこともありました。

20代の頃は形にとられ、大志を遂げなければ意味がないなどと思いつ、肩に力が入りすぎていました。勤めていた会社の倒産を経験し、アパレル界の競争率の激しさや裏切りの多さを肌で感じたこともあり。しかし、このころは祖母が言っていた「一生など、ご飯を食べて一生懸命働いて寝るだけだ」というシンプル

喜びの境地に達しました。また、日本を離れた今になって、禅の教えが身にしみるようになりまし。禅の心は、周りが全く静かでないこと。食べる物がなく、嵐の中でも心の中の静けさをなくさないこと。食べる物がなく、夜寝るベッドがあり、愛する家族がいて、好きなデザインを仕事として、至福だと感じられるような生活を送ること。これが今の私のスタンスです。



西高創立記念講演会

私の歩んできた道

講演者 石川準司 (高16回)

平成29年11月20日(月)1964年東京オリンピック陸上競技日本代表 石川準司(高16回)氏を講師に迎え、人間としての生き方を学びました。以下、講演内容です。中学時代は野球少年。しかし、陸上競技の先生から「お前は頑張れば優勝できる」と声を掛けら

れ、その言葉を胸に高校では陸上部に入部。短距離選手となりました。高1のとき100mで11秒。駄目だと思っていた夏休み、先生から「5種競技をやったら」と言われ、専門4種を練習しました。当時の私は(練習は人の半分で効率よく強くなりたい)「楽しんで強く」「お前が主役」をモットーにしています。不安な中、大会結果は100m10秒8が出ました。高校2、3年で練習メニューはハードになりましたが、先生の言う通りにやったら結果、高3で日本高校記録の10秒5が出て先生と大喜びしました。それが以降インターハイ、国体、数々の国際大会に出場しました。

大学時代は恩師と呼べる方に出会わず、中学・高校時代の先生の言葉を心にひたりに進めました。7年いるうちに恩師と同じ道を歩もうと考えるようになり、母校の西高にも10年在職しました。指導者になってからは、昔嫌いだっ「努力・根性」が一番好きな言葉になりました。

第3の恩師ケン・マツダ(トレイニングコーチ)との出会いもあり、2005年退職後はプロゴルファー藤田寛之氏と二人三脚で歩んできました。「努力・根性」が生きる世界で、「継続は力なり」です。

皆さんも、視野を広めて、いい出会いをしてください。と締めくくられました。

同級生の御室健一郎同窓会長がいらして控室では楽しく談笑されていました。



「高5回生同期会」開かる

旧蟬五日表題の同期会が「八十三才有志の会」と銘打ってアネックス呉竹荘を舞台に開催されました。毎偶数月の通常例会を稍々広域にし案内をした処、今回は名古屋及びその周辺勢の協力を得、総勢二十八名の出席となりました。

卒業実に六十五周年という記念すべき集まりでありました。が、開会宣言もそこに忽ち打ち解けて十七才当時に立ち帰り、話ははずみ、思わずスナップ写真の撮影を怠る始末でした。

在校中の思い出の一つとして、赴任間もない江藤教諭のご尽力で、時の文部大臣天野貞祐氏を招聘して講演会が開かれた事、又進学適正検査（現行の大学センター試験に相当）が静大工学部で行われ、会場となった教室は旧高射砲連隊仕様の部屋で天井がやけに高く数条の裸電球の下で苦心惨憺した事等々。更にはそれ以前、終戦直後の混乱期に迄及び、八月十五日の玉音放送を謹聴後、夏休み中登校。一学期で学んだ教科書の都合な箇所を墨で塗り潰す作業に終わられた事。翌年は新聞全紙見開きの大きさの粗悪な藁半紙に印刷された三十二頁を折り合わせ、千枚通しで穴を開け、紙縊りで閉じて教科書として使用したことなども苦楽を共にした仲間でした。か味わえない話に終始

し、閉会間際まで大いに旧交を暖め、有意義な一時を過す事が出来ました。同年齢の政治評論家、ジャーナリスト田原総一郎氏は、我々世代を戦後民主主義の第一期生と称し、全ての事に非常に不慣れで、総ゆる行動がごちないかと許されているが、まさに環境の激変が大きく作用しているのではないかと思量します。

そういふ我々も七巡目の年男（女）を迎え、改元も間近い中で、医者に無縁な者は皆無に近く、逐年毎に現存者が減少する現実面に直面し秋風落葉、肅条たる気分を駆られるのであるが、本会を更に長く継続する事が現存者たちの絆を強め、先に旅立たれた者への回向ともなり得るのではないかと愚考致す次第であります。

平成三十年五月二十七日  
井口計介（高5回）



高40回  
11年ぶりの学年同窓会開催!!

平成29年10月8日（日）15:00 ホテルコンコルド浜松銀木犀の間にて、学年幹事10周年の学年同窓会を開催しました。この日は3連休の中日ということもあり、地域のお祭りで欠席の人も多い中、恩師も含め約50人というメンバーが揃い、懐かしい話に花を咲かせました。今回は恩師の一人、佐藤先生が還暦ということもあり、サプライズも別途極秘で進めまし



た。赤いちゃんちゃんこを羽織っていたいただきました（笑）他にもご出席いただいた先生方へご退職後の生活を謳歌されておられ、楽しそうにお話してくださることで当時のイメージとは違う先生の一面も見えたり、同級生同士では話に花を咲かせあつという間の3時間でした。もちろん二次会はワルキューレにほぼ全員突入。今回の再会をきっかけに、高40回では関東チーム、関西チームが設立され、それぞれ飲み会を企画して楽しんでいきます。ご縁を紡ぐことができたこの会が盛会だったこと、本当に感謝いたします。

山本 優美（高40回）

第17回西高同窓フォーラム

平成30年2月17日（土）恒例の西高フォーラムがホテルコンコルド浜松にて執り行われました。

第一部は高15回長谷川和子さん講演会。

KBS京都の元取締役まで勤め、現在は京都大学などの大企業との連携を進める各種研究会の開催、京都づくりへの提案やコンサル等をされている。講演では、京都が現在行っている大学、企業との連携での勉強会が開催されていることや、企業のあり方、また外からみた浜松のことを話していただ

きました。現在、フォーラムに参加している私たちは殆どが地元浜松に住んでいるため、場を変えてみて、俯瞰的に浜松を見ることも必要なのでは？との提案もいただきました。京都の企業家との繋がりが多数ある長谷川さんの一番のポイントは「一緒にご飯を食べる」と。

一人で浜松を飛び出し、バリアがきつい京都で大活躍をされている長谷川さんのお話に、みなさん食い入るように聞き入り、時間がオーバーしても気づかないほどでした（熱い想いをお話ししていただきました）

第二部は恒例の懇親会。約80名の参加の元、各代の活動などを報告しあい、世代を超えた交流をし、応援歌にて締め、盛り上がる中での閉会となりました。

山本 優美（高40回）



講演をする長谷川和子氏

# 恩師訪問



有川 謹司先生 (高18回)

Q 先生の経歴は？

A 浜松西高校を卒業後、大学に進学し、教員となりました。初めて赴任したのは下田南高校。その後、袋井高校へ転任、そして平成元年から12年間、浜松西高校に勤務しました。当時、新校舎の建てなおしによりプレハブが建っていたため、野球部の練習スペースがなく、校外のグラウンドで練習していた時期が1年半程あったのを思い出します。新校舎が完成し、グラウンドが使えるようになった後も、限られた場所を効率良く使うために工夫したり、暗くなったり時には、車のライトで照らしたりして練習したこともありました。

Q 先生が西高生だった頃と変わったことがありましたか？

A 私が通っていた当時は、受験体制があまり整っておらず、時々ある模試の結果が出るのも2、3カ月かかっていました。そんな時代背景もあり、それぞれ個人のペースで努力するという雰囲気でした。私は勉強より野球に没頭し

ていました。そのため、西高に赴任した時には、非常に驚きました。「国立大学現役合格者を200名以上に増やす」という確固たる目標のもとにカリキュラムが組まれていましたし、真面目に勉強に打ち込む生徒ばかりでした。特に理数科の生徒は、朝7時半にはおよそ半数の生徒が席で黙々と勉強をしており、その姿に驚きました。

Q 西高での思い出といえば？

A 野球部の顧問でしたので、まずは部活動です。「人間性を磨くために、スポーツや勉強を頑張るんだ」ということを常に言い聞かせていました。また勉強が苦手な生徒には積極的に声をかけ、叱咤激励をしました。生活態度についても厳しく注意をしていました。

Q 体育の授業が厳しいと評判でしたが？

A 卓球の選抜チームの練習メニューを見たことがきっかけで、その場でできるウォーミングアップとして非常に効率的なサーキットメニュー（もも上げ、馬飛び、バービーなど）を思いつきました。その後、体育の授業では共通してサーキットメニューを取り入れられていきました。

Q 先生の高校生時代は？

A マラソンが得意で、1、2年生のマラソン大会で優勝しました。3年生ではクラスメイトに邪魔をされ、スタートとペース配分に失敗しまして…結果3位でした。悔しい思い出です。所属してい

た野球部の顧問の先生は、当時外方の方をお願いしていた為、私が教員をしていた時のように、勉強のことで指導を受けることはありませんでした。今と比べて全体的にのんびりとした雰囲気でした。

Q 現在はどのように過ごされていますか？ご趣味は？

A 退職した66歳の4月1日から、夫婦で桜の開花巡りをスタートしました。沖繩からスタートし、徐々に北へ足を伸ばしました。元々登山が好きで、家族でよく登山へ出かけていました。ただ、なかなかまとまった休みがとれず、遠出が出来なかったのが、今では妻とよく旅行に出掛けるようになりました。退職したその年は、年間100日程旅行をしたと思います。

また、家族全員でニュージランドへ行っただけで、海外での登山に魅了され、それから毎年海外や国内の山をトレッキングしています。壮大な山の麓を、自然や空気を感じながら歩くのは、極上の楽しみです。以前から趣味だったカメラを持参し、景色を撮るのも、また旅の楽しみの一つです。



## 西高トリビア

### 女子の夏服はいつから？

他校にも人気の当校の女子の夏服ですが、いつ頃からこのデザインかご存知ですか？実は、もう50年以上前に出来上がったのです。今の夏服のデザインをしたのは、当時の体育教諭の藤田寿子先生と高18回の女生徒の皆さんです。一年かけて作り上げた力作です。中高一貫校になる時も夏の制服だけはそのまま残したいということで、受け継がれたそうです。高18回 田村博美さんから話を伺いました。「この夏服がかわいくて志望校を西高に決めた生徒さんも少なくないみたいですね」(実は私も夏服で志望校を決めた一人です)



デザインしてくださった藤田寿子先生



ポストカード照



昭和40年頃

## 西高トリビア

### のろし 終戦の狼煙か？交遊の煙か？ 西山台の防空壕

「あの穴は戦時中、僕の兄貴達(高3回)が掘った。あの頃は学校に行っても授業は無く穴掘りばかり。学校の西側に何ヶ所かあったはずだよ」と語る高9回 K・Tさんが教えてくれた西高の昔話。防空壕が掘られたのは日本が終戦を迎えようとしていたその当時。そもそも学徒動員で学生たちは皆あちこちの工場に回されて、学校に行くことすら稀だった。アメリカ軍の機銃掃射を避けるためにかなりの奥行があった防空壕は、奥の方は随分と広くなっている。戦争が終われば無用の長物さ。僕は戦後西高に入学、その頃には防空壕の穴は一部の生徒達の溜まり場になっていて、休み時間や放課後に仲間がよく集まっていた。壕の天井から地表まで空気穴が開いていてね、何故かそこから煙が上がるんだな、モクモク。するとそれを見つけた教師が声を掛けるんだよ。『おーい、焼き芋は家に帰ってから焼け』のんびりした時代だったな。高9回 K・T談





# 西高OBOG 限定特典 割引協力店のご紹介

西山台で過ごした時代は違っても、西高への思いは今も胸に…。

ご縁がありましたら気軽に声をかけてください「西高卒業です!」と。

笑顔でお待ちしております。

すべて有効期限は  
2019年3月31日まで



いいものを、選んで、生きよう。

同窓会報をお持ちいただいた方  
10%OFF



高48回  
今枝 達哉

カフェ・ギフト・陶芸・ガラス・グリーン・食品・日用雑貨  
**ハルイチスタイル HARUICHI STYLE**

浜松市東区上新屋町 129-1  
TEL.053-411-5678 ■営業時間 / 11:00~19:00  
■定休日 / 火曜日 ※不定期にお休みを頂く事がございます



西高の思い出、温めて待ってます

卒業生にはビールまたはソフトドリンクを  
お一人様一杯プレゼント



高35回  
林(田中)美穂

**温(はる)**  
〒430-0932 浜松市中区着町 319-42 中山ビル1F  
アクセス…浜松駅から徒歩約8分  
TEL.053-457-5757  
■営業時間 / 18:00 ~ 24:00 ■定休日 / 日曜日



お子様連れOK、お子様の体験可能、出張教室

通常体験 1人  
2000円→1500円



高50回  
山口 利恵

**利白窯 陶芸教室**  
〒432-8036 浜松市中区東伊場 1 丁目 28-26  
アクセス…遠鉄バス 20 志都呂宇布見線 バス停「西高入口」下車徒歩 5 分  
TEL.053-489-5253 ■不定休(年末年始・GW・お盆は休み)  
■営業時間 / 10:00~12:00、15:00~17:00(変更可能)



きもので幸せづくりのお手伝い

西高卒業生の皆様にはサービス価格より、さらに1割引をさせて頂きます!



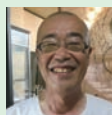
高47回  
伊藤 茜

**きものの愛染倉(あぜくら)**  
〒430-0924 浜松市中区竜禅寺町 794-3  
アクセス…浜松駅【南口】から徒歩約11分  
TEL.053-454-8867 / 0120-301-529  
■営業時間 / 10:00~20:00 ■定休日 / 水曜日



和食を極めた職人のいる店

ビールまたはソフトドリンクを  
お一人様一杯サービス



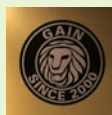
高27回  
山田 多加生

**味の匠 山田**  
〒430-0934 浜松市中区千歳町 118  
アクセス…JR 浜松駅より徒歩 5 分 千歳柳通り入口付近  
TEL.053-455-7775 ■定休日 / 日曜日  
■営業時間 / 月~土、祝日、祝前日:16:00~23:00(料理L.O.22:00ドリンクL.O.22:00)



浜西OB・OGの皆様!お気軽にご来店ください!

卒業生には  
オール30%引き  
します



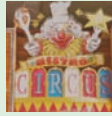
高47回  
安田 貴博

**スナック GAIN**  
〒430-0944 浜松市中区田町323-9 コネクト第14ビル4F  
アクセス…浜松駅から徒歩約10分  
TEL.090-8731-9310  
■営業時間 / 20:00 ~ 5:00 ■定休日 / 日曜日



「美味しい」「楽しい」が詰まったコミュニティ空間

同窓会報持参で  
一杯無料



高50回  
森島 涼介

**BISTRO CIRCUS ビストロサーカス**  
〒430-0926 浜松市中区砂山町 7-1  
アクセス…浜松駅北口から東側に徒歩1分 東海道本線高架下  
TEL.090-2263-1010  
■営業時間 / 11:30 ~ 24:00 ■定休日 / 月曜定休



一着一着、心を込めて製作しています。

ご注文の際、備考欄に「西高卒業です」とご記入頂ければ、全品10%割引させて頂きます。



高51回  
内藤 仁美

**Emer (エメル)**  
■HP / <https://emer.thebase.in>  
■instagram / emer\_baby\_and\_kids  
■E-mail / emer@suy1.bz  
TEL. 090-1860-7109

# 平成30年度(平成30年4月進学) 入試結果概要

## 入試合格状況

	平成30年度			平成29年度			平成28年度		
	現役	卒	合計	現役	卒	合計	現役	卒	合計
国公立大	85	18	103	102	22	124	99	19	118
私立四大	462	49	510	529	53	582	539	34	573
国公立短大				1		1	7		7
管外大	2		2	3		3	2	1	3
各種専門学校	6		6	3		3	1	1	2

国公立大学	平成30年度			平成29年度			平成28年度		
	現役	卒	合計	現役	卒	合計	現役	卒	合計
北見工業大							1		1
室蘭工業大									
北海道大	3		3	1		1	1	1	2
弘前大							1		1
岩手大	1		1		1	1			
東北大	1		1				2	1	3
宮城教育大					1	1			
茨城大		3	3	1		1	1		1
筑波大	2		2	3		3	1	1	2
宇都宮大				1		1			
群馬大				1	1	2			
埼玉大				1		1	1		1
千葉大	2		2	3		3	2		2
お茶の水女子大				1		1	1		1
東京大		1	1	2		2	4	1	1
東京医科歯科大					1	1			
東京外国語大									
東京学芸大	4	1	5	2		2	2	1	3
東京工業大	2		2				2		2
東京海洋大							1		1
東京農工大				1	1	2	3		3
一橋大	2		2	1		1	1		1
電気通信大				1		1	1		1
横浜国立大	1		1	3	1	4	6	1	7
山形大				1	1	2			
福島大									
新潟大		1	1	1	1	2			
金沢大	2		2	1	2	3	2	1	3
福井大					1	1			
富山大									
山梨大				2	1	3	2	1	3
信州大	3		3	3		3	3	1	4
静岡大	16	3	19	14	2	16	16	1	17
浜松医大	6		6	3	1	4	4	3	7
愛知教育大	2		2				1		1
豊橋技術科学大									
名古屋大	1	1	2	7	1	8	5		5
名古屋工大				1	1	2	1		1
岐阜大	1		1	2		2			
三重大		1	1						
滋賀大	1		1						
京都大	3	1	4	3		3	2		2
京都工芸繊維大	1		1					1	1
京都教育大									
大阪大				2		2	5		5
大阪教育大									
神戸大	2		2	5		5	4		4
奈良教育大									
奈良女子大	1		1	1		1	3	1	4
和歌山大	1		1						
岡山大	1		1	1		1	1		1
広島大	2	1	3	1		1			
鳥取大									
山口大							2	1	3
高知大									
徳島大									
香川大									
愛媛大	1		1						
九州大	2		2				1	1	2
佐賀大									
長崎大									
宮崎大	1		1						
鹿児島大				1		1			
琉球大		1	1						
宮城大	1		1						
国際教養大									
茨城県立医療大				1		1			
群馬県立県民健康科学大	1		1						
前橋工科大				1		1			
高崎経済大									
首都大東京	4	1	5	3		3	4		4
横浜市立大	1		1						

神奈川県立保健福祉大				1		1			
都留文科大	1		1	2		2			
金沢美術工芸大				1		1			
山梨県立大	1		1				1		1
岐阜薬科大							1		1
静岡県立大	6	1	7	9		9	6	3	9
静岡文化芸大	1		1	2		2	4		4
愛知県立大				3		3			
名古屋市立大				2		2			
福井県立大	1		1	1		1	1		1
京都府立大									
京都府立医科大	1		1						
大阪市立大	1		1						
大阪府立大				1		1			
兵庫県立大				1		1	2		2
岡山県立大							1		1
県立広島大				2		2			
広島市立大	1	1	2			1	1		
高知工科大									
北九州市立大									
九州歯科大						1	1		
長崎県立大学				1		1			
名桜大									

私立大学(抜粋) (管外大学校を含む)	平成30年度			平成29年度			平成28年度		
	現役	卒	合計	現役	卒	合計	現役	卒	合計
慶應義塾大	8	2	10	9	2	11	8	1	9
早稲田大	10		10	13	2	15	8	1	9
明治大	24	1	25	14	2	16	21	4	25
立教大	10	1	11	12	1	13	11	4	15
法政大	6		6	20	1	21	19		19
同志社大	10	2	12	13	3	16	10	1	11
立命館大	27	7	34	34	7	41	44	5	49
関西学院大	1	1	2	6	1	7	5		5
関西大	3		3	7		7	5		5
近畿大	8	5	13	12	2	14	5	1	6
上智大	4		4				5		5
中央大	12	2	14	18	2	20	9	1	10
青山学院大	9	1	10	4		4	13		13
東京理科大	13	3	16	7	6	13	11	1	12
芝浦工大	8	1	9	8	4	1	10		10
東京農大	3	3	6	9		12	7		7
明治学院大	10		10	3		3	5		5
日本大	10	1	11	15	4	19	16		16
東洋大	7	1	8	8	2	10	9		9
駒澤大	10		10	5		5	4		4
専修大	11		11	8	1	9	10		10
常葉大	31	1	32	33		33	58	1	59
聖隷クリストファー大	8		8	12		12	15	2	17
南山大	8	1	9	13	1	14	8		8
名城大	7	1	8	27	2	29	12		12
中京大	8		8	13		13	12		12
愛知大	10		10	20		20	5		5
愛知学院大	1		1	4		4	2		2
藤田保健衛生大	9	3	12	4		4		1	1
酪農学園大									
獨協大	2		2	1		1	2		2
文教大	2	1	3	1		1	2		2
学習院大	2		2	1		1	3		3
北里大	7		7	8		8	3	1	4
国際基督教大							1		1
順天堂大					1	1	5		5
帝京大		1		6		6	2		2
東海大	10		10	5	1	6	7	1	8
津田塾大	4		4	2		2	3		3
東京女子大	2		2	1		1	5		5
日本女子大							2		2
東京都市大	2		2	2		2	8		8
神奈川大	6	1	7	12		12	6		6
岐阜聖徳学園大	4		4	2	1	3	4		4
愛知医科大	2		2						
豊田工業大	4		4	2		2			
椋山学園大	1		1	6		6	1		1
日本福祉大							1		1
京都女子大	2		2	3		3	5		5
同志社女子大	3		3	5		5	3		3
龍谷大	11	2	13	9		9	6		6
関西外大	3		3	2		2	6		6
気象大学校									
防衛大学校				3		3			
防衛医科大							1		1
海上保安大学校									
水産大学校							2		2

医学部医学科 (2,3と重複掲載)	平成30年度			平成29年度			平成28年度		
	現役	卒	合計	現役	卒	合計	現役	卒	合計
国公立	4	2	6	2	2	4	1	4	5
私立(含自治医等)	9		9	4		4	1		1

※推薦・AO・補欠合格等を含みます。  
 ※私立総合計欄は、表記以外のすべての私立大学合格を含みます。

西山賞受賞者

西山賞とは「全国レベルで特に優れた業績・功績を挙げた生徒」に対して、4部門別(文化芸術部門、スポーツ部門、善行部門、科学部門)に同窓会から卒業時に授与されるものです。

中等部

▼文化芸術部門  
弁論大会 柴田 詩菜  
パソコン入力 砂野 創遼

▼スポーツ部門  
卓球 高木 あかね  
水泳 織田 菜摘 (400Mリレー)  
山田 花帆 (400Mリレー)  
伊藤 梓 (400Mリレー)  
小粥 彩加 (400Mリレー)  
福田 遼 (400Mリレー)  
伊藤 嶺志 (400Mリレー)  
上床 拓万 (400Mリレー)  
平野 真央 (400Mリレー)

陸上 仲子 綾乃 (800M)  
テニス 畑 瑠香

鈴木 珠音  
鈴木 実央  
鈴木 彩菜  
白木 こころ  
伊藤 梨華  
原 朋世  
安達 楽夏  
野沢 凜  
川端 才友美

高等部

▼文化芸術部門  
弦楽部団体(10名)  
将棋 佐々木 拓海

英語デイイベント

中野 雄大  
伊藤 葉大  
小澤 俊哉

▼スポーツ部門  
ボート(クオドル)

小林 里駆  
三星 響  
鈴木 秀和  
和井田 博貴  
栄原 豪  
針生 健志郎  
(ダブルスカル)

水泳 岡森 直緒  
山下 真由

陸上 佐々木 健人(飛板飛込)

テニス 中村 隼人(走り幅跳び)  
鈴木 瞳子(1600Mリレー)  
内藤 未彩(1600Mリレー)  
石原 真生子(1600Mリレー)  
鈴木 蓮

会報編集委員

編集委員長

- 左右田丈夫(中19回)
- 小田木基行(高22回)
- 伊藤 守行(高23回)
- 土屋 公良(高26回)
- 岩淵 千江(高39回)
- 山本 優美(高40回)
- 原野 扶有美(高46回)
- 小杉 哲康(高47回)
- 榎本 貴文(高47回)
- 小名木 勇人(高49回)
- 池田 宗高(高50回)
- 鈴木 慎一(高50回)
- 藤田 信行(高50回)
- 内藤 仁美(高51回)
- 飯田 衣子(高51回)

東坂を登り終えたときに 真っ先に見えるあのポーズの由来とは!?

西高トリビア



同窓会館の東側に堂々と立つ特徴的なモニュメント「大洋に向かって」このモニュメントの意味を知っている現役生や卒業生は以外と少ないのでは。そこで30年以上前に立てられたモニュメントの制作者である、当時ご赴任されていた大石倍二先生にお話を伺ってきました。

このモニュメントは「青春時代の、ひたすらにロマンを求めて、如何なる困難にも立ち向かっていく姿」の表現であり「実際、自分でやってみると感じてもらえると思うけど、大変苦しい。この苦しい姿勢は忍耐と努力をもって自分の限界に挑戦する青春の姿」の表現であるとのことでした。西高で学ぶ生徒に対して強いメッセージがこのモニュメントには込められていました。モデルは、当時いらっしゃった体育の森啓彰先生です。

その他、当時のいろいろなお話もたくさん聞くことができ楽しい時間を過ごすことができました。大石先生、貴重なお時間をいただきまして誠にありがとうございました。

2019年

“新春の集い”



～メインテーマ～

風

日時：平成31年1月2日(水) 受付:14時～開会:15時～

場所：グランドホテル浜松「鳳の間」

主催：静岡県立浜松西高等学校同窓会

GUEST

栗コーダーカルテット

NHKEテレ「ピタゴラスイッチ」などでもお馴染みのインストゥルメンタル・バンド。メンバーの川口は西高34回卒。



浜松西高51回卒同窓会幹事会

〒431-8038

浜松市中区西伊場町3-1

FAX 053-570-5973

MAIL access.hamanishi51@gmail.com

【チケットのお問い合わせ】

TEL 090-9129-2635

【広告のお問い合わせ】

TEL 090-6353-3768